

航空機の概要：追加



B-29 スーパーフォートレス:“超空の要塞”の異名を持つ、この大型の 4 発戦略爆撃機の誕生は、1930 年代の大型長距離爆撃機計画に端を発している。1942 年に初飛行が行われ、第 2 次世界大戦中には日本本土への長距離爆撃機として活躍した。与圧・空調設備の完備と遠隔操作による防御砲塔により、高度 9,000～10,000m の高高度での作戦が可能であった。日本の都市爆撃では低高度からの焼夷性爆弾による攻撃が行われ、火災により多くの都市が灰燼に帰した。また、1945 年の広島・長崎への初の核攻撃実施機として、人類の負の歴史に深くその名が刻まれることになった。朝鮮戦争では、初期の北朝鮮軍はこの要塞に対する対抗手段を持たなかったため、自由に高高度爆撃を行うことができた。しかし、MiG-15 が登場すると損害が続出し、1951 年には昼間爆撃の任から解かれることになった。



B-36 ピースメーカー:B-36 はもともとアメリカ本土から大西洋を超えて、ドイツを爆撃することを想定して開発が始められた機体であった。初飛行は 1946 年であり、第 2 次世界大戦での活躍の場はなかった。

B-29 に比べ、ほぼ 2 倍近い機体サイズと爆弾搭載能力を有していた。6 発の推進式レシプロエンジンを備えていたが、推力不足から主翼先端付近に左右それぞれ 2 機ずつのジェットエンジンが増設されている。冷戦初期には核爆撃用の機体として温存されており、朝鮮戦争でも実戦に投入されることはなかった。ジェット時代の航空戦に投入された場合、速力の問題から多くの被害を受けていた可能性がある。退役は 1959 年。その後は、B-47、B-52 といったジェット爆撃機が SAC の主力となっていくのだった。



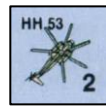
AC-130E スペクター:ガンシップ計画に基づき、C-130 ハーキュリーズに地对空攻撃用の武装を施したものである。ターボプロップ 4 発の低速機であり、大量の搭載弾薬を活用し、長時間旋回しながらの近接航空支援を継続するための機体である。ただし、敵の攻撃に対しては脆弱であり、制空権が確立していることが運用の前提条件である。左旋回射撃を基本としており、武装は左舷に集中して配置されている。7.62mm と 20mm のガトリングガンに加え、改修型では 40mm 機関砲と 105mm 榴弾砲という大口径火器も搭載された。空軍の特殊作戦コマンドにのみ使用されている。ベトナムで実戦投入された後も、グレナダ、コソボ、アフガニスタン、イラクなど、アメリカがかかわった主要な戦場でその姿が確認されている。



O-1 バードドッグ:セスナ 107/305 型の軍用機バージョンであり、1950 年に配備が始まるとすぐに朝鮮戦争の実戦に投入された。その当時の形式番号は L-19 であった。FAC として運用された場合には煙幕ロケット弾だけを搭載しており、事実上丸腰で戦闘に参加していた（もちろん、非常に損害が多かった）。1962 年に O-1 へと名称変更がなされ、ベトナム戦争に投入された。その後、逐次 O-2 へと代替が進み、1974 年には戦場から姿を消した。



O-2 スカイマーク:O-1 の損害がかさむにつれ、生残性の高さを持った同種の機体が求められるようになった。機体の前後にプロペラが付いた特殊な形状のセスナ 337 は、双発であること、装甲増設、武装可能パイロンによって理想的な O-1 の後継機種となった。武装可能であるとはいえ、ベトナムの空では O-1 と同様 FAC としての煙幕ロケット弾の発射が主任務であり、武装はあくまで自衛用のものであった。



HH-53 スーパージョリー:シコルスキー社の設計による、重輸送ヘリコプターである。当初は海兵隊向けに作られたが、輸送以外の任務にも幅広く対応できることから、海軍、空軍でも採用された。空軍の HH-53 は主に救難任務や特殊作戦支援に用いられるため、敵陣への侵入を想定して地上制圧用に 7.62mm ミニガンを搭載している。ゲームに登場する C 型はエンジンを換装し、出力を増強したタイプで「グリーン・ジャイアント」とも呼ばれた。44 機が採用されている。



TU-4 ブル:第 2 次世界大戦中に日本本土爆撃時にアクシデントを起こした B-29 は、ソ連領内に不時着することがあった。ソ連はこれらの機体を回収、解体して、ほぼコピーと言える TU-4 を作り上げた。“ボーイング スキー”という名で揶揄されはしたが、これでソ連が核兵器の運用能力を持つ戦略爆撃機を手にしたのは間違いなかった。第 2 次世界大戦後にアメリカが自国の防空網整備に本格的に乗り出したのは、この機体の存在が大きい。しかしながら、B-29 が朝鮮の空でジェット時代についていけないことが明らかになると、急速に後継機種にその座を明け渡し、1952 年には退役した。



TU-14 ボースン:IL-28 が採用された時、競作となっていたライバル機があった。TU-73 である。敗れたツボレフは、TU-73 をベースに、より強力な（ロールス・ロイスのコピーである）クリモフ・エンジンを搭載し、与圧コンパートメントなど様々な変更を組み入れて新たな双発の軽爆撃機を作り上げた。結果的にできあがった機体は、ほぼ IL-28 と同等の性能であったため、軽爆撃機としては採用されなかった。しかし、対艦魚雷が運用できる雷撃機型(TU-14T)が 1952 年に海軍航空隊に採用された。数十機単位で、中国軍にも供与されている。



TU-95 ベア:1950 年代のジェット時代の黎明期の中で、ソ連は 4 発のプロペラ推進の長距離爆撃機を開発する。二重反転プロペラをターボプロップ・エンジンで低速回転させるこのベアは、大きな後退角を持った主翼と相まって、世界最速のプロペラ機となった。最高速度は TU-16 に若干引けをとるものの、遷音速に達していた。そして、巡航速度はほぼ同等なものであった。この機体はその優秀性から、長距離戦略爆撃機としてだけではなく、改修を受けて空対地ミサイル運用機や哨戒機としても利用されている。この機も TU-16 やアメリカの B-52 同様、今日でも現役で世界の空を飛んでいる。

謝 辞

以下の人たちに感謝を述べたい。彼らは、私がこの冊子を書くために、多くの時間と努力を費やしてくれた。

- ・ **Bob Gross** : 彼はヒストリカルリサーチと、私の記事の概要を示してくれた。
- ・ **Tim Tynan** : 彼は精力的に校正に取り組み、文法の間違いを正し、そしてプレイテストにも尽力してくれた。
- ・ **Tony Stanfl** : 彼は洗練されたアートワークを担当してくれた。
- ・ **Phil Boinske** : 彼は常に私を励まし続け、精神的な支えになってくれた。そして、このゲームの出版に尽力してくれた。